

# いわ桜小

学校だより No.4  
令和元年6月28日

学校の教育目標

自分で考え 行動する子

## ふるさとを愛する気持ち

山県市少年の主張大会（6月8日実施）で5年生の田中あおいさんが学校代表として発表しました。タイトルは「小さな命を美しい川へ」です。（裏面に全文掲載）

4年生の総合的な学習の時間に行ったアマゴの飼育体験を通して感じたことや学んだことをまとめたものです。小さなアマゴの卵。その卵がすべて稚魚になるわけではありません。大切に世話をしているにもかかわらずなくなってしまう命。卵から顔を出したアマゴとの対面。そして川への放流。

卵から世話をしてきたからこそ、命の大切さを実感することができます。放流するときに強く生きてほしいと心から思うことができます。単なる放流体験とは違い、大きな意味があります。

当日のあおいさんの発表は、中学生や他の小学校代表の6年生と比べても遜色のない素晴らしいものでした。体験に裏打ちされた力強さを感じました。

イワザクラの栽培、アマゴの飼育、葛原太鼓、武儀川・神崎川の環境調査など、豊かな自然と文化を題材にしたふるさと学習に力を入れ、ふるさとを愛する気持ちを育てます。



- 1日(月)図書館祭りスタート 夏日課全校15:10下校開始
- 4日(木)クラブ
- 5日(金)授業参観 学級懇談会 AED講習会(PTA家庭教育学級)
- 10日(水)分団会
- 11日(木)読み聞かせ
- 12日(金)大掃除
- 15日(月)海の日
- 16日(火)個人懇談
- 17日(水)個人懇談
- 18日(木)個人懇談予備日
- 19日(金)終業式

### 個人懇談

1学期の様子や夏休みの生活について有意義な懇談にしたいと思います。よろしくをお願いします。

19日の下校時刻  
10:40学校出発  
徒歩・マイクロバスとも

### 夏休みの主な予定

- 川下り(5年生希望家族)  
7/28
- 図書室開館日  
7/23 7/25  
7/30
- 8/1 8/22
- 作品提出日  
8/21 8/22
- 学校閉庁日  
8/8~8/16
- 2学期始業式  
8/29

## 小さな命を美しい川へ

田中 あおい

「さようなら、しっかり生きてね。」

最高の達成感と共に、私たち四年生はアマゴを川へと送り出しました。

「もうそろそろ雪が降りそうだな。」

そんな日に、アマゴの飼育が始まりました。美山漁協の田中さんに協力していただき、アマゴの卵を育てさせていただけることになったのです。

卵をもらったときの大きさは、まだ約五ミリメートルでした。

「みんな川に返せるといいな。」

と、放流するのが楽しみでした。

そして、アマゴを育て始めた次の日。ある事件が起きました。数個の卵が白くなっていたのです。そう、死んでしまっていたのです。みんなから、

「かわいそう。」

という声がいくつか上がりました。私もそんな気持ちでした。せっかく、私たち四年生に任せてもらっている小さな命。その命を私たちはうばってしまったようなものだったので、反省の気持ちでいっぱいでした。そして、その日から毎日のようにアマゴの卵が死んでいきました。本当は悲しかったけれど、いつの日か、

「しょうがない、しょうがない。」

と、思うようになっていきました。

数日たったある日、ついにアマゴの卵から顔が出ました。その日のアマゴの当番が知らせてくれました。私は、休み時間に見に行ってみました。体長は、約一センチメートル、かわいい顔が出ていました。私は、うれしかったです。今まで育てたアマゴが卵からかえったのです。その卵がかえったことで、

「ちゃんと、かえるんだ。」

という安心した気持ちになりました。なぜなら、卵をいただいたとき、本当にこんな小さな卵でちゃんと生きていけるのか不安になったこともあったからです。でも、産まれてきてくれたからこそ、また飼育も頑張ろうと思えました。

次の日から、どんどん新たな命が生まれ始めました。ときには、せっかく産まれてきたのに、すぐに死んでしまうこともありました。けれど、

「次こそは。」

と、思うようにしました。すると、アマゴはあっという間に育っていきました。

そして、十二月十日。放流の日がやってきました。みんな、ペットボトルにアマゴを入れ、川へ向かいました。みんな名前を付けたりに楽しかったです。その時間もあっという間に過ぎ、川に着きました。まずは、川の水に慣れさせました。そうしないと、冷たくてびっくりしてしまい、アマゴが死んでしまうからです。

そして、私たち四年生はアマゴを美しい美山の川へと放流しました。これまで育ててきた大切な命。少しずつ少しずつ泳いでいくその姿を見て、本当に

「強く生きてほしい。」

と思いました。

この出来事は、四年生の大きな思い出となりました。命を育てることの喜びや大変さを教えてくれたことに感謝します。